

1 題材 伝えよう日本の音楽

2 教科の目標

旋律や音色，反復から日本の伝統音楽の特徴を感じ取り，情景を思い浮かべながら表現したり，聴いたりすることができる。(技能・鑑賞)

3 ICT活用の観点

分かりやすい発表・表現

4 活用したICT

統合ソフトの音楽作成機能 プロジェクタ

5 ICT活用のポイント

音楽作成機能を活用し，音楽が苦手な子どもも自分だけの雅楽を作成することができる。また，再生することで，リズムを目で見確認することができ，演奏会へつなげることができる。音楽作成機能で音楽を作成することとリズムを知ることまでを学習し，曲の強弱など演奏者自身の思いを考えるように心掛けた。

6 実践の様子

「伝えよう日本の音楽」では，自分たちの雅楽づくりをペアで行わせた。使用する音は「越天楽今様」に使われている音のみとした。雅楽の曲に使われている音を使うことでより雅楽らしさが出ると考えた。子どもたちは，雅楽の雰囲気を出すために，音符の長さを長くしたり，短い音を入れたりそれぞれペアで考えながら音楽づくりに取り組むことができた。完成した自分たちの曲をパソコンで再生させ，リズムを確認しながらリコーダーを吹く子どもの姿が多く見られた。(資料①) また，自分たちでつくった雅楽のイメージを絵で表現した。(資料②) そして，曲とイメージした絵と一緒に流すことで，作曲者の思いをより明確にして聞いている友達に届けた。(資料③) その後，演奏発表会を開いた。子どもたちは，緊張しながらも自分たちの曲をクラスの友達に発表することができた。演奏会が終わったあと，子どもから「またやってみたい。」という次への意欲も聞くことができた。



資料① 練習風景



資料② 子どもが書いた雅楽のイメージ絵

7 成果と課題

- 紙と鉛筆だけでは，音楽を苦手としている子どもたちにとってとても負担になっていた楽譜の作成の部分が解消され，クラスの子どもたち全員が作ることができた。
- 五線譜への音楽づくりだと，楽器演奏を苦手としている子どもたちにとって，自分がどんな音楽を作ったのか確認することができない。しかし，音楽作成機能を活用することで，その場で自分の作った音楽を再生することができ，確認することにつながった。
- 音楽作成ソフトは，音楽づくりをすることができても，音楽として大切な強弱などを表現することができない。自分たちの作った音楽の曲想をしっかりと考える時間を設けたい。



資料③ 演奏発表会